

# ニュースレター 事業短信

from AIKOH

2018(平成30)年3月19日(月) No.147

<発信者> 社会福祉法人愛光理事長・法澤奉典  
043・484・6391(本部) / 043・484・6571(理事長室直通)  
(URL) <http://www.rc-aikoh.or.jp/>  
(Eメール) [mail@rc-aikoh.or.jp](mailto:mail@rc-aikoh.or.jp)

## CONTENTS (今月号の内容)

- \* 日誌抄録(1頁) : (2018年2月1日～)
- \* おもな動き(2頁) :
  - ・リホープ発表に最優秀賞(実践発表会)
  - ・千視協 社会福祉法人設立記念式
  - ・職員状況(2018年2月中)
- \* 現場の内外で(3頁) :
  - ・権利擁護と職員の意識 ほか
- \* 情報&ニュース(4頁) :
  - ・世論が後押し(ホームドア / 「強制不妊手術」問題) ほか
- \* マイタウン(5頁) :
  - ・いまが青春! ほか
- \* 三代目燈台守(6頁) :
  - 歪められたことば「付度」

## ▽日誌抄録(2018.2.1～)

月/日(曜)	記事
2/1(木)	愛光・千視協グループ法人協議会
3(土)	節分
4(日)	立春
9(金)	施設長会議(本部第1会議室) / 冬季オリンピック開会式(韓国・平昌)
11(日)	建国記念の日
12(月)	(振替休日)
13(火)	福祉学習(山王小学校)
14(水)	サービス責任者会議(本部第1会議室)
18(日)	ボランティア地域デビュー講座(本部第1会議室)
19(月)	施設長会議(本部第1会議室)
23(金)	後援会運営委員会(本部ボランティア室) / 職員研修(リーダー研修)
24(土)	Aikoh フォーラム『使おう! 成年後見制度』(南部地域福祉センター)
25(日)	冬季オリンピック閉会式(韓国・平昌)
28(水)	施設長会議(本部第1会議室)
3/2(金)	予算ヒアリング(本部第1会議室)
4(日)	第7回愛光実践発表会(はちす苑千田ホール)
9(金)	大地震想定防災訓練(本部事業所) / 冬季パラリンピック開会式(平昌)
10(土)	千視協社会福祉法人設立記念式(京葉銀行文化プラザ)
11(日)	ボランティア地域デビュー講座(本部第1会議室) / 東日本大震災7周年

寒さが厳しい冬ほど春の実感が身にしみます。特に北国はまだ残雪もあり、関東地方に住むわれわれほどに季節の変わり目はまだ感じられないかもしれません。時間差はあっても南の国から花の便りと共にうららかな日差しが戻ってきます。

さて年度の終わり近くともなれば、4月からの事業年度の開始に向けて事業計画・予算書の作成や新任職員を迎える準備にかかります。「地域共生」をテーマとする中期経営計画も中間年、そして南部児童センター・学童保育所の指定更新が円滑に進むよう、心と力を合わせて臨みたいと決意しています。

## ▽おもな動き

### リホープ発表に最優秀賞(第7回実践発表会)

愛光で事業展開している現場での取組を公開する「職員実践発表会」。今年で7回目となります。3月4日(日)にはちす苑千田ホールを会場に地域の方を含め約50人が参加、次の6題の発表がありました。松山毅・順天堂大学准教授を審査委員長とする4人の審査の結果、下記のように受賞者が決まりました。

- ① 『七転び八起きの日中活動～支援学校を卒業した新規利用者支援を通して～』 ……………  
(杉山夏美：めいわ／徳永春菜：根郷通所センター)
- ② 『スッキリバナナ～便秘改善への試み～』 ……………  
(飯田浩司：ルミエール)
- ③ 【最優秀賞】『職員の意識への働きかけ～利用者の生の声から気づくため～』 ……………  
(吉田伸作・森貴裕・佐原麻美：リホープ)
- ④ 『支援職の在り方についての考察～べてるの家訪問と実践～』 ……………  
(古澤充健：ワークショップかぶらぎ)
- ⑤ 【優秀賞】『美味(うめ)えからし菜食わしてやるよお～U様の事例を通して～』 ……………  
(日野史生・川澄茂：はちす苑)
- ⑥ 【優秀賞】『地域のニーズに応える～児童センターの変革・4年間の軌跡～』 ……………  
(鈴木信子：佐倉市南部児童センター)

### 千視協 社会福祉法人設立記念式

昨年4月、旧四街道事業所(視覚障害者総合支援センターちば)の諸事業を千葉県視覚障害者福祉協会(千視協)に移管してやがて1年になろうとしています。移管時に締結された「基本合意書」に基づき、愛光と「グループ法人」としての連携関係を構築しつつ、当事者による事業運営の成果を期待しているところです。

千視協では、事業移管に際して取得された社会福祉法人設立認可(2017年3月1日)から1周年を迎えられた折に「設立記念式」を開催されました。3月10日、千葉市の京葉銀行文化プラザに関係者が参集して行われました。式典の席上で、伊藤会長より当法人に対して今回の事業移管への感謝状を頂戴いたしました。本職からも謝辞を申し上げ、両法人のこれまで築いてきた絆を、より強める新たな出発となることをお願いいたしました。

<p>■職員状況 (2018年2月中)</p>	<p>*採用：1(パート1) *退職：0 *2018年2月28日現在：職員現員361人 (正職159／サポート又は常勤嘱託41／パート又は非常勤嘱託160) *育児休業：2(めいわ1・ルミエール1) *休職：1</p>
-----------------------------	---

## ▽現場の内外で

### 権利擁護と職員の意識

コンプライアンス委員会では、毎年職員の権利擁護に関する意識調査を実施しています。同委員会より2月28日に職員に対するアンケート結果が報告されました。利用者サービスにあたって、差別や虐待などの権利侵害にあたる不適切な言動に関する現場職員の自主点検結果です。調査用紙配布数327、回答数277、回収率は84.7%でした（全体数）。

主な質問項目と回答欄に記入された意見の抜粋です（直接処遇系事業所）。

- ◆「利用者に対して年齢にふさわしい対応をしている」⇒「はい」90%（170人）／「いいえ」9.5%（18人）
  - ・利用者を子ども扱いしているつもりはないのだが、つい友人や家族に対するような言葉遣いになることがある。
  - ・高齢者への接し方としては当たり前だが、施設利用者に対しても、目上の人に対する礼を失しないように心がけている。
- ◆「利用者のプライバシーへの配慮を適切に行っている」⇒「はい」93.1%（176人）／「いいえ」5.3%（10人）
  - ・施設におけるこれまでの慣習を見直し、本当に必要かどうか考えている。
- ◆「最近の1年間で、利用者に対して、威圧的な態度や命令口調の対応をしたことがある」⇒「はい」29.1%（55人）／「いいえ」68.3%（129人）
  - ・仕事が忙しいとき、つきつく利用者にあたってしまう（5人）。
  - ・自分の体調不良や同僚の言動にイラついている時、利用者に対して普段より強い口調になってしまった。
  - ・利用者に対して乱暴な対応をしていると注意を受けたことがある。

### 利用者のホンネ

「職員にもっと話を聞いてほしい」

第三者委員との懇談を通じて聞こえてきた利用者の声でした。リホープでは、1月に実施した利用者アンケートでも、

「職員の態度はあまり変わらない。変わることはもうあきらめた」

という意見がありました。こうした声を踏まえて、サービス管理責任者はより具体的に利用者のホンネを引きだしたいと、面談機会（個別・集団）の定例化に取り組むことになりました。さっそく5名の利用者から個別面談の希望があり、施設に対して厳しい注文が出されました。

- ・訪室の際のノックの音が大きすぎる。視覚障害のある同室者はビックリしている。職員は障害特性を理解できていないのではないか。
- ・利用者の話をうわの空で聞いている職員がいる。
- ・職員室で声をかけても、職員同士で話をされていて出てきてくれない。
- ・自分の意見を言う場がない。もっと話を聞いてほしい。

今後の対応として、3月から「Real Intention（本音）」の「Hope（希望）」を言おうと、『RI hope（リ・ホープ）会』を発足させることになりました。3月4日に行われた「第7回職員実践発表会」では、リホープから「職員の意識への働きかけ～利用者の生の声から気づくため～」という表題の報告が最優秀賞に選ばれました。利用者の権利擁護の視点から、サービス改善の取り組みに施設が一体となっている状況が評価されたものです。利用者の声に耳を傾け、施設入所者の生活改善に成果が出ることを期待しています。

## ▽情報&ニュース

### 世論が後押し

#### ◆「ホームドア」首都圏に整備加速

「“欄干のない橋”を渡るようなもの」と当事者から例えられた駅のホーム。相次ぐ視覚障害者の転落事故で、首都圏の一部駅で進められている「ホームドア」の設置ですが、乗降口が様々な列車への対応、多額の整備費などその推進を阻む事情もあるようです。しかしこれは人命にかかわる事柄です。「共生社会」「バリアフリー社会」と理念ばかり強調されるだけでは当事者には冷たく厳しい現実にはさらされる毎日は変わりません。

事故が起こるたびにマスコミが取り上げ、視覚障害者の安全確保が訴えられてきたところですが、2020年のパラリンピック東京大会開催にあたって、これではいけないという世論にも押される形で、JR東日本が3月8日、2032年までに東京圏の主要路線330駅にホームドア整備を完了させると発表しました。千葉県内では、総武快速・各駅停車区間の千葉駅まで、京葉線の蘇我駅までの各駅が対象になるとのことです。とりあえず朗報ですが、残念ながら物井駅、四街道駅、佐倉駅はこの計画には入っていないようです。

#### ◆議連設立（旧優生保護法「強制不妊手術」問題）

前号でとりあげた旧優生保護法による「強制不妊手術」問題。人権侵害の憲法違反と、知的障害者による国に対する提訴は、その後新聞各紙が社説で取り上げるなど、世論に訴える動きに拡大しています。国会議員の間でも超党派の議連が3月6日に設立総会を開き、政府も全国調査に乗り出すという報道がありました。ドイツやスウェーデンに遅れをとってはいますが、やっと国家補償に向けて動き始めました。

### 4月から障害者雇用率引き上げ

民間企業等における障害者の雇用率を定める障害者雇用促進法が改正され、新年度から施行されます。これまでの法定雇用率は2%でしたが、これが2.2%に引き上げられます。従業員50人以上の企業に義務付けられますので、愛光にも適用になります。

今回の改正趣旨は、これまで雇用率計算の対象外だった発達障害者や躁うつ病を含む精神障害者が対象になります。現在、全国で雇用率を義務づけられている企業は9万社。しかし雇用率をクリアしているのは5割。「共生社会」への道遠しと言わざるを得ません。

なお、国は2020年度末までに雇用率を2.3%に引き上げる計画です。

あいとひかりのコンサート2018

**ダ・カーポ 公演チケット**

**発売中!!**

<料金>3000円（全席自由）

<開催日>2018年4月21日（土曜日）13:30～

<会場>四街道市文化センター

<お問い合わせ>愛の灯台基金事務局(043-484-6391)

## ▽マイタウン

### いまが青春！

「老いてますますお盛ん」なんて失礼な！

南部地域福祉センター「教養教室」は“地域密着型カルチャーセンター”です。3月8日は年度末恒例の「発表会」。1年間の活動成果を披露しあう交流の機会でもあります。

毎月数回の教室は「カラオケ」「踊り」「尺八」「大正琴」「民謡」「書道」「生け花」「自力整体」「太極拳」「詩吟」の10講座です。発表会当日は皆さん早朝からちょっとおめかしをして会場のセンター集会室に集合。9時30分の開会に主催者としてのご挨拶をいたしました。大広間はほぼ満員の大盛況。名演・熱演・力演にお互いに惜しめない拍手とエールの交換。食事をはさんで午後3時過ぎまでの約6時間、時を忘れていまでも現役を喜び合っていたらっしゃいました。

### 3 事業所コラボの「地域共生活動」

「児童センター＋南部地域包括＋はちす苑」のコラボ企画。地域の認知症高齢者の理解と支援を推進しようという「認知症サポーター養成講座」。児童センターの「スマイルクラブ」のちびっ子たちも講座の参加者として今回ははちす苑の「認知症カフェ」（オレンジカフェはちす）を体験することになりました。以下はその時の模様です。

＜ボランティアチーム「スマイルクラブ」のメンバー14名と保護者3名が「認知症サポーター養成講座」を受講。

某月某日、オレンジリングをつけて「オレンジカフェはちす」参加のため、児童センターからはちす苑まで、約2<sup>キロ</sup>の道を徒歩で出発。初参加のまあちゃん（小学校2年生）がだんだん不機嫌に…。

「なんでー！疲れた！こんなのぜんぜんスマイルじゃねーんだよ」

と怒り出してしまった。いつもはニコニコおだやかなまあちゃんの変貌ぶりに付き添いのインストラクターも啞然…。

でもはちす苑に着いて活動を始めると、いつの間にかいつものまあちゃんに。講座でオレンジリングをもらった弟のケンちゃん（学齢前）と一緒に、福笑いを楽しんだ。ケンちゃんはお年寄りから「かわいいね～」とカフェで大人気だった。

当初幼児同伴の受講については、賛否両論であったが、ふたを開けて見れば、自然な世代間交流が生まれ、地域共生の第一歩になっていたような気がする（文中仮名）＞

（南部児童センターインストラクター・鈴木信子）

歪められたことば「忖度」<sup>そんたく</sup>

正直で忖度なしの体重計

課長さんたまには部下に忖度を

忖度し娘と別に洗濯し

先頃発表された「サラリーマン川柳コンクール」優秀 100 句からの 3 句である。「忖度（そんたく）」という、読み方も意味もわからなかった言葉が、ある出来事をきっかけにすっかりおなじみになった。今年の流行語大賞ともなり、こうして世相を映すサラリーマン川柳にも登場した。

「自分なりに考えて、他人の気持ちをおしはかること」（新明解国語辞典）

とある。他人が「こうしてほしいな」と思うことを察して、そのようにとりはからう。この「他人」とは、自分より目上の人を指す場合が多いようだ。役人が時の権力者の意向を汲んで破格の値下げをし、国有地を払下げたのではないかという疑惑が国会で追及され、以来、この言葉が急に流行しはじめた。

衆目を集めたこの一件では、「忖度」が“おもねり”“へつらい”<sup>\*</sup>のような意味で使われている。組織内での保身や出世のため、という下心さえ見え隠れしている。

<sup>\*</sup>人の喜ぶようなことをしたり言ったりして気に入られようとすること。

これを川柳の達人たちがひとひねりして、冒頭のような作品になった。

「最近少しお腹が出てきたんじゃない？」なんて言われて、そっと計ってみる。

「あア、やっぱり体重計はウソつかない」（ソんたくしてくれるはずはないけど…）

日ごろ職場で上役の顔色ばかり気にしている。そんな立場だから、口に出せないけど、いつも上から目線の課長に、ほんとうはこう言ってやりたい。

「たまには部下の思いをソんたくしてよ！」

そして毎日年頃の娘の冷たい視線を浴びているお父さん。娘に気兼ねして（娘の思いをソんたくして）、少しでも嫌われないようにと、洗濯物まで別にして…。

こんな場合に「忖度」は、ちょっと自虐的に、あるいは理不尽な上司に対する内心の非難、卑屈ではあるが哀愁漂う気遣いとして川柳の世界で笑いを誘う。しかしもともとの意味に「いいソんたく」「悪いソんたく」の 2 種類があるわけではない。ましてや押し付けられたソんたくなどありえない。ほほえましいソんたく、無神経な他人に求めるソんたく、哀れなソんたくは、いわば“応用編”。

語源からの本来の意味はこうであった。

「指をそっと置いて長さや脈をはかるように、そっと気持ちを思いやること」（漢字源）

紹介した「自分なりに考えて、他人の気持ちをおしはかること」という『新明解』の記述と考え合わせれば、これは対人サービスの極意そのものと思える。ただ支援や介護が、利用者の思いを正しくソんたくしたものになっているかどうかは、厳しい条件がある。

まずそれは仕事だからと、「対価」としてのサービスをおぎなりに行うのは論外である。

そして職場での研修や職員教育によって身につけた「顧客満足マニュアル」を意識して、“つくり笑顔”をふりまき、“とってつけたような”念入りのサービスも不十分だ。

これが人としての「思いやり」や押しつけない抑制されたおもてなしであれば、はじめてそれは「忖度」にあたるだろう。

しかし残念ながら「忖度」にはすっかりダークティーンなイメージが刷り込まれている。

「利用者の思いをソんたくして…」

などと言おうものなら、どんな反応が返ってくるか、「マジすか？」なんて言われそう。

（法澤 奉典・のりざわ ともりのり）